

2 学校教育の努力点とその推進計画

(1) 推進テーマ

分かった！できた！もっと知りたい！があふれる伊勝っ子
～タブレットを使った効果的な学習方法の模索～

(2) 研究主題設定の理由

ア 今日の課題から

名古屋市では、学校を子どもがいきいきと活動できる場所とし、一人ひとりの子どもを大切にした教育活動を実現することを目指している。そのために、個別最適化された学びや「個別化・共同化・プロジェクト型学習」に取り組むことが必要だと考えている。特に、第3期名古屋市教育振興基本計画では、幅広い学力の育成するために、ICTを活用した教育の推進している。

そこで、令和3年度は、各教科における学習の場面において、まずは、教師がタブレットを使った授業づくりを工夫することで、児童の学習意欲や理解力の向上を目指していきたい。

イ 本校の学校教育目標から

本校では、「正しく、仲よく、力いっぱい」を校訓として掲げ、

- 自分の考えをもつことができる子
- 相手の立場に立って考え行動できる子
- 健康で安全な生活ができる子

の育成を目指している。これは、名古屋市の目指す、学校を子どもがいきいきと活動できる場所とし、一人ひとりの子どもを大切にした教育活動を実現することに密接に結びつくものである。

この学校教育目標の知にあたる「自分の考えをもつことができる子」を具現化するために、教員がタブレットなどのICT機器を活用し、児童の学習意欲や理解力の向上を目指す必要があると考える。

ウ 児童の実態から

本校ではこれまで「言葉を進んで調べる伊勝っ子」を目指し、全学年で辞書引き学習に取り組んできた。子どもたちは、今までよりも辞書が身近なものになり、辞書を使って言葉を調べることが好きな子どもや辞書を使って言葉を調べることが得意であると答える子どもが増えてきた。そして、語彙力が高まってきた。

そんな中、本年度から、「GIGA スクール構想」が本格的に導入されることになった。ICT機器を効果的に用いて学習をすることが必須となる。そのため、教員も児童もICT機器やタブレットの操作や活用に慣れ、使いこなしていけるようにならなければならない。そこで、令和3年度は、「児童の学習意欲の向上」や「理解力の向上」を目標に、タブレットを効果的に使用した指導内容や指導方法を工夫していきたいと考える。そして、来年度以降は、そのベースを基にして、ICT機器の更なる効果的な活用方法を模索していきたい。

(3) 推進の方法

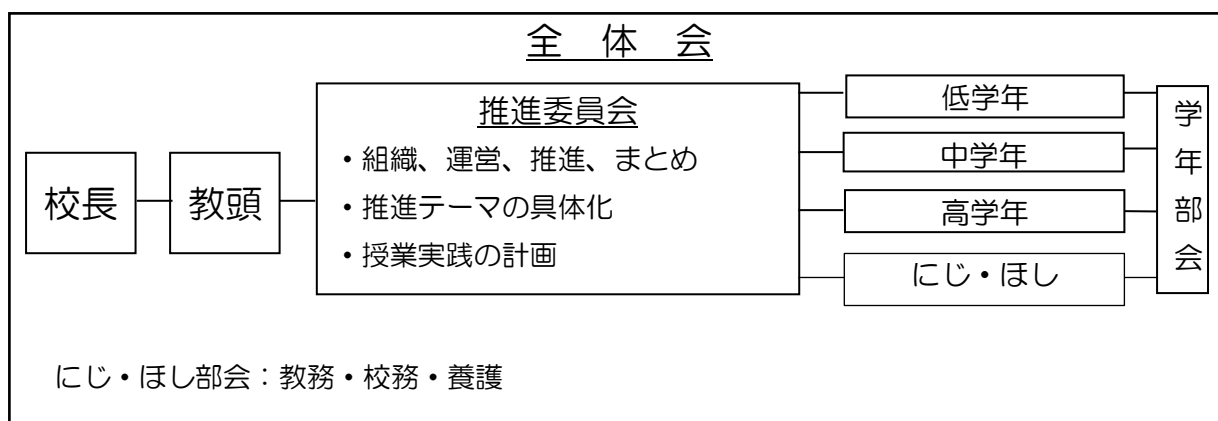
ア 授業実践について

- 実践は、子どもの実態に合わせて、各学年で話し合っていく。
- 学級担任は一人一授業実践を行う。
- 教科については、どの教科でもよい。
- 学年で、実践が前期（4月～9月上旬）と後期（10月～1月末）に分かれるように話し合う。
- 実践の1週間前には、実践の日程を決め、教務に申し出る。
(できるだけ時期が集中しないようにする。)
- 指導案は、略案または流れを示したものとする。特別支援学級は、親学級に入って授業実践を行ってもよいが、個別の支援計画案などを作成する。授業前日の朝までに配付する。
- 低学年、中学年、高学年、にじ・ほし組の4つの部会に分かれて、授業研究を進める。部会内で事前検討会・事後検討会を行う。部会の職員と希望する職員が参加する。
- 部会の職員と希望する職員、教務主任か努力点推進委員長が参観する。

イ まとめについて

中間まとめと最終まとめの2回、手立てと子どもの変容を中心にまとめる。

ウ 推進組織について



エ 年間計画

4	・主題の決定と推進のための組織づくり（推進委） ・主題の決定と推進のための組織づくり（全体会）	10	・中間報告会（全体会）
		11	
5	・各学級・学年の推進計画立案（学年部会） ・各学級の授業実践（各学級）	12	
		1	・最終報告会のもち方の提案（全体会） ・各学級の授業実践（各学級）
6		2	・本年度努力点の反省（各学級） ・最終報告会（全体会）
7		3	次年度の努力点推進（推進委）
8	・先進校への視察、資料の収集（個人）		
9	・中間報告会のもち方の提案		